

【全体概要】

県内の飼料用稲生産組織では、畜産農家から要望のある極短穂茎葉型の飼料用稲の生産が増加している。一方、面積の拡大に伴い収穫作業が集中するといった課題も出てきている。そこで、「たちすずか」に比べて籾重量がさらに少なく高品質化が期待できる新品種「つきすずか」を導入するとともに収穫時の作業分散を目的とした新品種「つきことか」等を組み合わせた体系を確立し飼料用稲の生産拡大の普及を図る。

新品種・新技術等の概要

○両品種とも

- ・農研機構西日本農業研究センターで育成
- ・極短穂茎葉型で、日長反応性が強い
- ・糖分含量が高く、発酵品質・嗜好性が良い



つきすずか

「つきすずか」の品種特性

- ・晩生で、出穂は「たちすずか」と同程度
- ・「たちすずか」より籾重は少なく、収量は同程度

「つきことか」の品種特性

- ・極晩生で「たちすずか」より3週間出穂が遅い
- ・晩植でも籾重が増えず、茎葉多収。

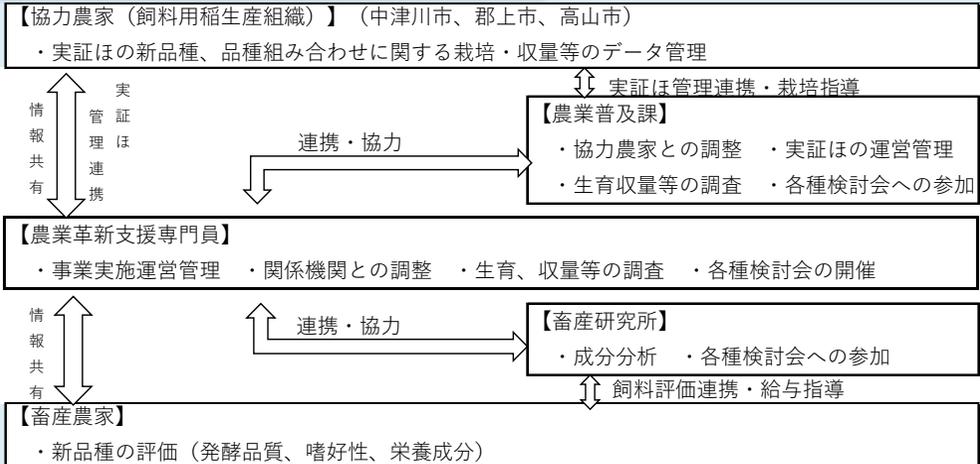


稲WCSの収穫

主な取組内容

- ・実証ほ設置による新品種の特長把握(低籾重、増収効果)
- ・品種の組み合わせによる栽培体系確立(収穫作業分散、栽培面積拡大)
- ・新品種稲WCSの成分分析による品質評価
- ・新品種導入と品種組み合わせによる地域に適した飼料用稲の栽培体系マニュアル(手引き)の作成
- ・生産者、実需者による現地検討会、情報交換会、マッチング

実施体制図



課題と今後の対応

●実証結果の概要

- ・平均乾物収量は「つきすずか」「つきことか」とともに1.5t/10a程度となり、「たちすずか」と同等の収量であった。籾重量割合(乾物)は10%以下、地域によっては1%を切っていた。「つきことか」は「つきすずか」に比べ出穂が10日～3週間ほど遅く、両品種を組み合わせることにより作業の分散・適期収穫の期間延長が可能となった。

●今後の対応

- ・令和2年度の「つきすずか」に続き、令和4年度には「つきことか」が岐阜県飼料作物奨励品種に選定されたことから、中山間地域を中心に「つきすずか」との組み合わせによる作業効率・稲WCSの品質の向上に向けて、栽培面積の拡大を図る。